

時計の圖にそへて

在來の盤面の内側に 13~24 を書くよりも、此の圖(表紙繪)の様にする事を主張します。1 から 12 までの時数は、誰でも覚えてゐて、數字を読む要がありません。私方で實行してゐます(公衆用の時計)。

七 月 9 日

金 澤 市 池 亮 吉

編輯室より

野尻氏は、どこまでも星座星名の研究者として精進せられる。北ボルネオに行はれる星の名など、とても普通には獲られない材料である。さらに舊蘭印の他の地方や、フィリッピン、佛印、タイ、ビルマ、ニウギニヤあたりの珍しい話題が、今後も紹介されんことを望む。▲渡邊氏の“梅小路天文臺”の記事も興味が深い。只、残念なことに、一枚の地圖(京都市内の必要な點を示すもの)が添へられなかつたことは、惜しい。近いうちに、何とかして、この欠を補つて頂きたい事を、讀者と共に希望したい。▲山本博士の中等學校天文教材論は、意外な方面にも熱心に讀まれてゐるらしい反響がある。本號を以つて此の稿は終つたが、今後、更に實地について詳しい指導文が待望せられる。嘗に、中等學校のみならず、初等學校の方面でも、又、幼兒の保育教育の方面にも、天體に對して或る程度の關心が拂はれる傾向にある由であるが、かうなつて來ると問題は寧ろむづかしいのではないだらうか。幼兒と天文!——去る八月下旬、堺市の學事課主催で天文學の講習會が開かれ、百人ばかりの學校教師たちが、山本博士や高城、佐伯、室田諸氏を中心として、殆ど徹夜してまで勉強した由であるが、山本博士の意見としては、幼兒や兒童に對しては、天文の知識を、成るべく與へないやうに、教師諸君は注意すべきであるといふのらしい。之も一理である。今日の學校教師は、とかく物を教へたがる。そして却つて多くの弊害を起しつゝある。勿論、教師自身は、子供ではないのだから、ウンと勉強して、いろ々々の知識や體驗を、澤山持つてゐるに越した事はない。しかし、そんな知識などを振りまはして、子供を苦しめては、子供たるものは、たまつたものでない。せい々々學校の教科書に書いてある程度のことを、よくかみしめて教へ込むことに止めるが良いと思はれる。▲編輯室の机上に良い原稿が山積してゐて、それを消化するために、次號まはしになるものが澤山あるのを感じてゐて頂きたい。午の歳に因む“馬の星座”の記事が、はや年の半ばを過ぎた今頃現はれたのは、全くこの記事輻輳のたゞりであつて、大に御詫び申上げる。(U. V. W.)